

体験1 危険性又は有害性の特定

〔個人作業〕



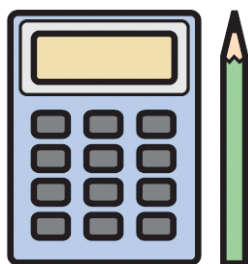
前ページの課題（イラスト）をみて、どんな危険性又は有害性があり、それによって、どんな災害が発生するのかを想定しながら、次の①～⑤のキーワードを用いて、危険性又は有害性により発生のおそれのある災害を表現します。

イラストに隠された危険の芽と発生のおそれのある災害は、1つや2つだけではありません。イメージを膨らませて発生しそうな災害を特定しましょう。

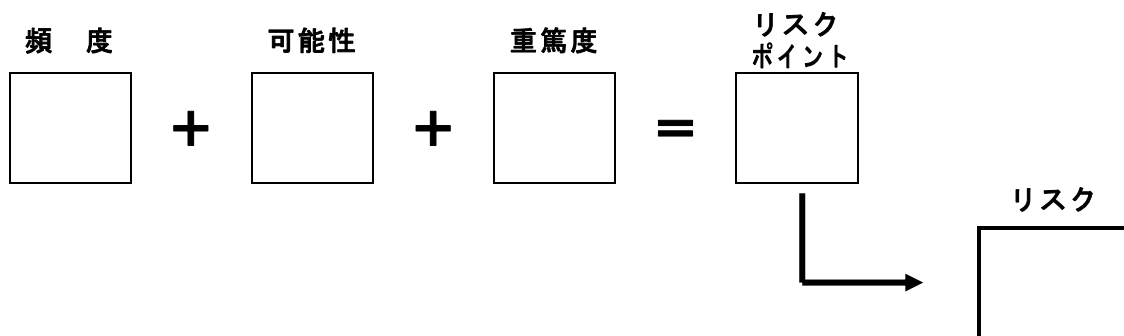
- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| ① 危険性又は有害性 | 「～に、～と」 |
| ② 労働者 | 「～が」 |
| ③ 危険性又は有害性と労働者が近づく状態 | 「～するとき、～するため」 |
| ④ 安全衛生対策の不備 | 「～なので」 |
| ⑤ 負傷又は疾病の状況 | 「(事故の型) + (体の部位)を
～になる、～する」 |

体験2 リスクの見積り

〔個人作業〕



体験1で特定されたリスクについて「① 労働者が危険性又は有害性に近づく**頻度**」「② 危険性又は有害性に近づいたときに、回避できない**可能性**」「③ 危険性又は有害性によって発生する、想定される最も大きな負傷又は疾病の**重篤度**」という3つの要素をそれぞれ評価し、その数値結果による『加算方式』でリスクを見積ります。



頻 度	点数	内 容 の 目 安
頻 繁	4	10回程度に1回
時 々	2	50回程度に1回
ほとんどない	1	100回程度に1回

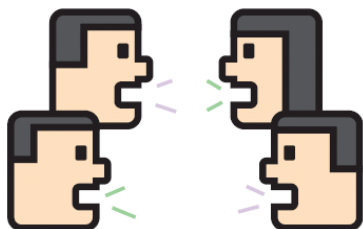
可 能 性	点数	内 容 の 目 安
極めて高い	6	危険に気がついたとしても、誰もが回避できない
高 い	4	危険に気がついたとき、回避できないことが多い
低 い	2	危険に気がつければ、回避できることが多い
極めて低い	1	危険に気がつければ、ほぼ回避できる

重篤度	点数	災 害 の 程 度・内 容 の 目 安
致命傷	10	死亡や永久的労働不能につながるけが 障害が残るけが
重 傷	6	休業災害（完治可能なけが）
軽 傷	3	不休災害（医師による措置が必要なけが）
軽 微	1	手当後直ちに元の作業に戻れる軽微なけが

リスク	点 数 (リスク値)	優 先 度
IV	12～20	直ちにリスク低減措置を実施する必要がある。
III	9～11	速やかにリスク低減措置を実施する必要がある。
II	6～8	計画的にリスク低減措置を実施する必要がある。
I	5以下	必要に応じてリスク低減措置を実施する。

〔点数が高いほど優先度が大〕

〔グループ討議〕



〔個人作業〕で見積ったリスクの見積り結果について、グループ全員が1人ずつ発表します。

発表の結果、グループ内の意見が異なったときは、3つの要素の点数についてグループで討議し、意見の統一を図ります。

この時、決して平均値をとったり、多数決で決めないように全員が納得いく点数になるように討議します。やむを得ず全員一致が得られない時は、点数の一番大きい値をグループの結果としてください。